

2020年3月期 第3四半期決算説明会 質疑応答の要旨

<新型コロナウイルス関連>

問1：新型コロナウイルスの影響について、定期船（コンテナ）、ドライバルク輸送、自動車輸送の分野で、それぞれ教えてほしい。

答1：定期船は、ONE社経由で適時情報収集中であり、現時点で明確なことは見通せていませんが、旧正月の影響が1週間伸びるイメージとなるので、何かしらの影響が見込まれます。輸送需要減に対しては機動的な減便で対応する方針ですが、現時点でアライアンスとしての追加減便を決定してはいません。

ドライバルク輸送については、影響が徐々に出てくる可能性があります。製造業の生産体制への影響があれば、原料・燃料等への影響は避けられないと考え、状況を注視していますが、現時点でどの程度かを見通すのは難しい状況です。但し、業績への影響は今年度ではなく来年度に及ぶと見ており、今年度への大きな影響はないだろうと現時点では考えています。自動車輸送においては、当社全体感からすれば中国関連の完成車輸送は限定的であり、影響は大きくないと見込んでいます。

<定期船事業>

問2：競合他社と比べると、ONE社の利益率は満足できるものではないと考えている。黒字化を達成しつつあるONE社の今後の方向性について教えて欲しい。

答2：親会社として、現時点での利益額・利益率では到底満足できるものではないと考えています。但し、昨年度の大規模赤字からの回復には2～3段階が必要であることも間違いなく、その途上との認識です。今後の進め方は、今年度末頃に発表するべく現在策定中のONE社中期的計画に織り込む予定で、その際の利益率は競合他社に遜色ないものにしたいと考えています。

< 航空運送事業 >

問3：前回決算発表時、日本貨物航空（NCA 社）の今後の在り方を議論しているとの説明があったが、その進捗や議論の方向性を教えてほしい。

答3：最大の経営課題との認識の下、社外取締役からも厳しいご意見を受けながら、社内で議論を継続しています。その際、事業規模・事業環境（マーケット）等を踏まえつつ、全ての選択肢を視野に入れた検討を実施している状況です。今年度末の決算発表までには、何かしらかの方向性をお示しするべく続けているところです。

問4：現時点において、来年度の荷況（航空貨物需要）をどう見ているのか教えてほしい。また、黒字化への見通しも教えて欲しい。

答4：来年度の業績見通しは現在策定中であり、具体的な事柄を申し上げる段階には至りませんが、考え方としては、輸送需要は足許低迷が長期的に継続するとは思っておらず、来年度の後半にかけては、やや回復するのではと見ています。2020年度においても、2017年度～2018年度の需要好調期水準までの回復は難しく、例えば2016年度程度と見込んで立案している途上です。また、イールドは厳しいレベルが続くと見ています。これらに基づくと、2020年度通じての黒字化は難しく、年度の後半から単月ベースでの黒字化が視野に入る程度と現時点で考えています。

問5：NCA社の強み・弱みとは何か、教えてほしい。

答5：運航する機材（B747貨物機）の特殊性と認識しています。その特殊性を踏まえ、飛ばし方を工夫するとメリットが出る一方、他社とのコラボレーション等にやや難しさがあると考えています。飛ばし方の改編には着手しており、世界一周航路を中断して日米間の往復に切り替える等を実施中です。

< 物流事業 >

問6：郵船ロジスティクス（YLK 社）の業績レベルをどう捉えているか教えてほしい。また、競合他社と比較しての強み・弱みは何だと捉えているのか、教えてほしい。

答6：競合他社比で十分満足できる業績とは認識しておらず、今後も改善が必要と考えてい

ます。YLK 社の強みは、地域とセグメントでのバランスです。これまで説明してきました点も含め社内で再議論をしている途上です。現在、YLK 社の中期経営計画「TRANSFORM 2025」の進捗振り返りと今後の中間的計画を策定中であり、この中でご説明する予定です。

<不定期専用船>

問7：運賃先物（FFA）関連損益の出方と現在の市況での運用について教えてほしい。仮に、市況が悪化すればその分業績は良化するのか？

答7：第2四半期末時点では実現・評価損の計上があり、第3四半期末では実現・評価益が計上されています。以前もご説明した通り、年度末において評価損益で業績が大きく変動することは好ましくないと考え、年度末を跨ぐものは量的に限定しています。FFA によるヘッジは、基本的には予算レベルで実行する方針で、この方針に変更はありません。足許での FFA レートは低迷しており、予算とも乖離しているため、特段の手当てはしていない格好です。なお、4Q 期間における当社既決 FFA のレートは不変のため、仮に今後市況の悪化幅が拡大しても、当社 4Q 業績への影響は抑えられ、結果的にヘッジ効果がより現れる形になります。

以上